

## 令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立北部中学校	学校No.	51
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目標：コロナでも優しい心であるように、緑化活動を推進する。 計画：年度末・年度初めの見ごろを目指し、12月～2月に活動する。 推進体制：校務主任・美化担当、美化委員会、外掃除担当生徒</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>委員会、清掃の時間を利用して、花の球根植え、種まき、苗植えを行った。 美会委員が当番として、ホースで水やりを行った。 委員会の際、高枝切ばさみで、フェンスに巻き付いたツルを切り落とした。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>自分たちが、植えたこともあり、水やりまでしっかりと行っていた。また、春が近づくにつれ、日に日に花も増え、校内が色鮮やかになった。そのことで「お花きれいだね」と、先生や級友に褒められ、美化委員会、外掃除の生徒は満足げであった。 ただ、一部の生徒での活動であった。今後より多くの生徒が緑化推進に携わるシステム作りの必要がある。</p>			

**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

## 令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立中部中学校	学校 No.	5 2
<b>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</b>			
<p>本校は「社会福祉への関心と理解をいっそう深め、交流や体験を通して『福祉の心』を育てる」というねらいをもって、福祉教育を推進してきた。本年度も、「社会福祉推進校として、人権教育、思いやり教育の推進」を重点目標として設定し、福祉教育推進委員会、学年、生徒会を中心に以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。</p>			
<p>○福祉実践教室を通して、支え合いながら共に生きる社会づくりを理解するとともに、日常的な実践活動の契機とする。</p> <p>○ボランティア体験活動、勤労・福祉体験活動を通して、弱者への配慮と勤労の喜びを体験し、今後の社会生活に生かす。</p>			
<p>本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年取り組んでいる実践を行うことができなかつた。しかし、少しでも本校のねらいに迫るよう、代わりとなる実践を行った。</p>			
<b>2. 福祉教育の具体活動の内容（活動の記録）</b>			
<p>（1）中中夢トーク（R3.7.12）</p>			
<p>「中中夢トーク」は、現在社会の中で活躍してみえる中部中の先輩から「自分が頑張ったことや壁を乗り越えたことなどの体験談」や「自分が心がけていること」などのお話を聴くことで、現在在学中の中中生がこれから夢や目標に向かって頑張っていくための「きっかけ」や「ヒント」をもらいたいと考えて開催した。</p>			
<p>（2）福祉実践教室（R3.10.26）</p>			
<p>初めにビデオ視聴をし、障害のある方の立場を理解するとともに、実際に自分たちに何ができるかを考えた。実践教室当日は、最初に講師の方からお話を伺った後、クラスごとに、車いす体験、手話、高齢者疑似体験、点字、視覚障害者ガイドヘルプなどの各講座に分かれ、講師の方のお話を聞いたり、実際に体験をしたりした。体験後、体験レポート集を作成することで、自分と違った体験をした生徒の思いにも触れることができた。体験後の感想には「今の自分たちが不自由なく身体を動かしていることに感謝しながら毎日を生きていきたいです」や「もし、自分の近くに困っている人などを見かけたら、そのまましておくのではなく、声をかけたり、優しく対応してあげたりできたらと思います」などとあった。福祉実践教室を通じて、すべての人が共に助け合いながら生きていくために必要な「心の持ち方」と「行動のとり方」について学ぶことができた。</p>			
<p>（3）映画鑑賞会（R3.11.30）</p>			
<p>午前の部と午後の部の2グループに分かれて人権映画鑑賞会を行った。生徒たちに共通する部分がたくさんあり、涙を流しながら鑑賞する生徒の姿も見られた。この映画から学んだ、相手を思いやる気持ち、仲間とともに目標に向かって努力することの大切さを学んだ。</p>			
<b>3 福祉教育の成果と今後の課題</b>			
<p>本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定通り行うことはできなかったが、来年度は、感染症対策をしっかりと行い、1つでも多くの活動ができるようにしていきたいと考える。</p>			


## 令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立南部中学校	学校No.	53
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 本校の教育目標 心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、思いやりのあるたくましい生徒を育成する。</p> <p>(2) 福祉教育目標 社会福祉に関する実践学習を通して、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア・社会連帯の精神を養う。</p> <p>(3) 手立て・計画</p> <p>①体験活動…障害者の立場を理解する体験や障害者の活動を支援・援助する体験活動をする。</p> <p>②理解を深め、意識を高める…障害者を理解し、思いやりのある接し方を身につけることで福祉・ボランティアの意識を高める。</p> <p>③実践力を養う…広くボランティア参加を呼びかけ、実践にいろいろな場で実践させることで、進んで、福祉活動・ボランティア活動ができる生徒を育成する。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>6月・福祉実践教室</p> <p>10月・愛知県の医療従事者を支援するための募金活動</p> <p>11月・赤い羽根共同募金の実施。</p> <p>12月・緑化委員は、運動場フェンス周りにパンジーの苗を植え、緑化活動を行った。</p> <p>・1年を通して、朝、校内清掃活動に取り組んだ。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>今年度も昨年度同様にコロナ禍の影響により、ボランティア活動が実施できなかった。しかし、生徒会や委員会を中心に、校内で実施できる活動に取り組んだ。赤い羽根共同募金を実施した際には、多くの生徒が参加したことに喜びや達成感を感じていた。また、本年度は規模を縮小しながらも福祉実践教室を実施し、点字を体験しながら、理解を深めることができた。</p> <p>来年度はコロナの状況にもよるが、可能な活動を実施していきたい。各種ボランティアの紹介を行い、多くの生徒がボランティア活動に興味を持ち、参加できるように計画していきたい。</p>			

**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

## 令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗中学校	学校No.	54
<p>1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は平成3年度に、社会福祉協力校の指定を受け、「社会福祉への関心と理解をいっそう深め、交流や体験を通して『福祉の心』を育てる」というねらいを持って、福祉教育を推進してきた。本年度も、「一宮特別支援学校との交流、社会福祉推進校としての取り組み等を通じた人権教育、思いやり教育の推進」を重点目標として設定し、福祉ボランティア委員会、各学年、生徒会を中心に以下のような目標を掲げ、計画を立案し、実践に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一宮特別支援学校との交流を通して、障害のある方への理解推進を図る。</li> <li>○ 福祉実践教室を通して、支え合いながら共に生きる社会づくりを理解するとともに、日常的な実践活動の契機とする。</li> <li>○ ボランティア体験活動、勤労・福祉体験活動を通して、様々な人への配慮と勤労の喜びを体験し、今後の社会生活に生かす。</li> </ul> <p>2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 活動名 特別支援学校交流 (1年)</p> <p>(2) 活動時期 12月</p> <p>(3) 活動計画 12月上旬～中旬 おもちゃづくり 1月6日(木) 特別支援学校へおもちゃ贈呈</p> <p>(4) 活動状況</p> <p>例年、第1回ふれあい交流会では、葉栗中学校でゲームを行い、第2回ふれあい交流会では、本校生徒が特別支援学校の生徒に向けてふれあいゲームを行っている。本年度は一宮特別支援学校の代表生徒と本校の代表生徒が事前にZOOMでの交流会を行った上で、おもちゃ作りに取り組み、心の通じ合いを図った。</p> <p>(5) 成果と反省</p> <p>例年行っている特別支援学校との交流会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの取り組みが縮小されたが、先輩達がこれまでに構築してきた繋がりを生かすためにも、ZOOMでの交流会とおもちゃ作りを行うことにした。各クラス6～7班に分かれて、班ごとに自分たちで作ることができるおもちゃを考えた。計画的に作成することも課題の1つだった中、考案したおもちゃを実現させるために、家に持ち帰って作成した生徒もいた。作りあげた計34個のおもちゃは1月6日(木)に特別支援学校に届けた。特別支援学校からは、おもちゃを楽しんで使っている様子などを動画で送ってもらった。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p style="text-align: center;">【おもちゃ作成の様子】</p>			
<p>3 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>本校では、めざす生徒像の一つとして「心豊かな生徒の育成」を掲げている。一宮特別支援学校との交流も約30年続き、福祉推進校としての活動は30年を数えている。毎年の活動で、福祉への関心は着実に高まっている。今後も福祉教育に関する活動をより充実させていきたい。</p>			

## 令和 3 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成中学校	学校N o.	55
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉に関する実践学習の機会を通して、福祉への関心を高める。</li> </ul> <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室，一宮東特別支援学校との交流会，ボランティア福祉体験学習，生徒会による募金活動やあいさつ運動 などの実践</li> </ul> <p>推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室は，1年学年主任を中心に計画し，第1学年の学習内容として活動を行う。</li> <li>・一宮東特別支援学校との交流会は，2年学年主任を中心に計画し，第2学年の学習内容として活動を行う。</li> <li>・ボランティア福祉体験学習は，福祉教育担当教師が中心となり，他の教職員の協力を得て進める。</li> <li>・生徒会による募金活動やあいさつ運動は，生徒会担当教師が中心となり，定期的に活動を行う。</li> </ul> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践教室（11月） 目の不自由な方の生活を理解するために，盲導犬協会に講師を依頼した。代表生徒3名がアイマスクをつけて盲導犬と歩行することを行った。他の生徒は，その様子を観察した。</li> <li>・一宮東特別支援学校との交流会（12月） 一宮東特別支援学校の中学部生徒を，本校に招き実施した。本校生徒が企画したレクリエーションに参加してもらい，交流を深めた。</li> <li>・ボランティア福祉体験学習（7，8月） 参加希望者を募り，「ケアハウスユーハウスいわと」「いずみフレンズ」「デイサービスセンター葉栗の郷」の福祉体験学習に参加した。</li> <li>・募金活動（4月，11月） 「赤い羽根」「緑の羽根」の募金活動を行った。</li> <li>・あいさつ運動 コロナ禍のため，本校生徒が西成小学校，瀬部小学校に出向いて行うあいさつ運動は実施せず，PTAと連携し，校内のみで実施した。</li> </ul> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>成果</p> <p>福祉実践教室では初めて盲導犬と歩行する内容を取り入れた。代表生徒3名のみの体験となったが，インターネットでの調べ学習や動画視聴を通して障がいについて理解させることができた。</p> <p>今後の課題</p> <p>コロナ禍のため，生徒会執行部で打ち合わせを行う時間を設けることが難しく，昨年度実施したユニセフ募金の活動を行えなかった。今年度の募金活動は2回のみの実施で終わったため，来年度はユニセフ募金の活動も実施したいと考える。</p>			

**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

## 令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立丹陽中学校	学校 No.	5 6
-------	-----------	--------	-----

## 1. 福祉教育の取り組み(目標・計画・推進体制)

本校は、「心身ともに健やかで、思いやりがあり、たくましく生きる人間を育てる」を教育目標にさまざまな体験を通して「夢を育む教育活動・豊かな心を育てる教育活動」の充実を目指している。

福祉活動については、今年度も「障害者の方々と、共に生きる明るい社会を作るために、自分たちに何ができるのかを考え、実践できる生徒の育成」を目標に、活動への契機となる体験を通して介護や福祉に対する理解の深化、ボランティア精神の育成を図ろうと、校内・校外の諸活動に取り組んできた。

推進体制として、各学年に福祉担当教員を配置し、福祉実践教室、職場体験などの学校行事の実施を中軸に、地域でのボランティア活動や生徒会による募金活動など、幅広く福祉活動を進めてきた。

## 2. 福祉教育の具体的活動の内容(活動の記録)

## (1) 社会福祉に対する関心を深め、意識を高める活動

## ① 各種施設でのボランティア活動 (7、8月)

高齢者施設「お達者クラブ」、障害者施設「あすか」、障害者施設「あおぞら」などで、ボランティア活動を体験した。高齢者施設では、高齢者の方の話し相手をしたり、介助の手伝いをしたりして、福祉について考えることができた。障害者施設では、入所者と一緒に、キャンドル作りや自転車の解体作業などの作業を行うことで、作業所の人たちと交流することができた。

## ② 福祉実践教室 (10月)

1年生を対象に、障害のある方の講演を聞いた後、講座ごとに分かれて、実際に車椅子、手話、点字、要約筆記、視覚ガイドヘルプを体験した。実際に障害のある人々との交流や、具体的な介助の仕方を学ぶ中で、障害のある方への理解を深めるとともに、「何か手助けをしたい、役に立ちたい。」という気持ちを育てることができた。



## (2) 地域社会との連携を深めた活動

## ゲストティーチャーに学ぶ会 (1月)

地域の方を招いて、地域の歴史や仕事などの経験談を聞くことができた。今年度は感染予防のため、全体会のみの実施であったが、ゲストティーチャーの先生方の熱意のこもったお話に、真剣に聞き入る姿が見られた。

## (3) その他の活動

赤い羽根の街頭募金活動や緑の羽根の募金に協力した。



## 福祉教育の成果と今後の課題

福祉活動を通して、生徒たちが、人の役に立ちたいという気持ちで主体的に活動する姿が多く見られた。地域や校内で自主的に奉仕活動を行う生徒も増えた。生徒の関心、意欲を高めながら、学校として今後も積極的に社会福祉活動に参加できる生徒を育てていきたい。


## 令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井中学校	学校No.	57
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>重点努力目標を「利他共生」と設定し、高齢者や障害のある人に対して関心と理解を深め、ボランティア活動等に積極的に参加し、活動を進めた。 委員会やボランティアの生徒を中心に、次のようなねらいで計画し、実施を行う。 ○行事や授業での取り組みを通して、福祉に関する理解を深めさせる。 ○地域ボランティア等を通して、福祉に対する向上をはかる。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>4月 前年度からの係の引継ぎ、および年間の活動計画を作成した。 緑の羽根募金活動への協力</p> <p>6月 学活や道徳の時間に、福祉実践教室に向け、事前の調べ学習や福祉に関する動画視聴を行った。 福祉実践教室は、新型コロナウイルス感染症予防のため中止。</p> <p>7・8月 青少年等ボランティア福祉体験学習 老人福祉施設や、障害者施設などにおけるボランティア活動を通して、社会貢献の意義や喜びを体感させた。 3施設中1施設実施、2施設中止。</p> <p>8月 環境委員で菊を栽培した。花を咲かせた菊は、校内に飾ったり、地域文化祭に出展したりした。</p> <p>11月 赤い羽根共同募金への協力</p> <p>12月 浅井町の桜を守ろう（地域ボランティア） 地域の方と、浅井町にある桜の木の保護や、名札をつける活動を行った。</p> <p>3月 アテネパラリンピックメダリストの杉内周作さんの講演会 1年生を対象にパラリンピックのメダリストの話聞いた。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>本年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、なかなか思うように活動ができなかった。福祉施設や地域でのボランティア体験について、参加希望者は毎年たくさん申し込みがあるので、ボランティア活動に対する意識は高まっていると感じる。 今後も自分たちができることを考え、全校で取り組めるような実践を続けていきたい。また、地域の方々とともに、より充実した活動を行っていきたい。</p>			

**※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。**

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

## 令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立北方中学校	学校No.	58
1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）	<p>本校は、『自主・責任』を常に意識し、実行に移すことのできる生徒の育成」を教育目標に掲げ、生徒の自主的な活動を重視した各種活動に努めている。また、体験活動を多く取り入れることで、校訓でもある『自主・責任』の具現化を目指している。社会福祉教育もこの一環として位置づけ、社会福祉への理解と関心を高め、福祉の心の育成を図るとともに実践力を育てることを目標とし、豊かな心の育成に取り組んでいる。</p>		
2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）	(1) 社会福祉活動に対する関心を深め、意識を高める活動		
ア 福祉実践教室（1年生）	<p>福祉実践教室は予定していたが、2度延期をし、最終的に中止となった。体験活動はできなかったが、道徳や学級活動の時間に福祉に対する意識高揚を図った。進んで福祉活動に関わっていこうとする気持ちを高めることができた。</p>		
イ 広報活動（全学年）	<p>生徒の活動については、写真や感想を紹介したり、掲示物に展示したりした。また、学校ウェブサイトで、活動の様子を知らせた。</p>		
(2) 地域社会との連携を図る活動	【地域のボランティア活動】		
ア 青少年ボランティア福祉体験学習事業（全学年）	<p>例年、夏季休業中に行われているが、実際には1事業のみであった。しかし、募集には多くの生徒が希望をした。この活動を通して、老人や障害者に対する理解を深めることができ、貴重な体験となっている。</p>		
イ 体験保育学習（3年生）	<p>毎年、校区内の幼稚園で体験保育をさせていただいている。小さい子どもの世話をすることで、思いやりの心や子育ての重要性、命の大切さを学んでいる。今年度は実施しなかった。</p>		
ウ お年寄りを囲む会（3年生）	<p>毎年、地域のお年寄りを学校に招き、給食をともにしながら、戦後の体験談や昔の遊び、北方町の生活様式、伝統文化などの話を聞いている。自分たちに寄せられている地域からの期待を感じながら、郷土を愛する心を高めることができている。今年度は実施しなかった。</p>		
(3) 生徒の手による自発的な活動	<p>ア 学校周辺にある通学路のゴミ拾い（環境委員会）   イ 赤い羽根共同募金活動（生徒会） ウ ゴミ0運動（環境委員会）   エ あいさつ運動（生徒会）</p>		
3 福祉教育の成果と今後の課題	<p>様々な活動を継続的に行ってきたが、今年度も多くの活動が中止となり、体験をできる場は数少なかった。しかし、できる範囲で行った活動や、道徳教育などで、福祉活動に対する関心が高まるとともに、命の大切さを感じ取ったり、思いやりの心が育ってきたりしている。</p>		
<p>今後は、感染症対策を十分に行ったうえで、活動できる機会を増やしていきたい。また、地域のボランティアにも積極的に参加させ、地域に貢献する喜びを味わわせたい。生徒に成就感を味わわせることにより、福祉に対する意識をさらに高めていくとともに、より多くの生徒が関わることができるようにはたらきかけていきたい。</p>			



## 令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立大和中学校	学校No.	59
-----	-----------	-------	----

## 1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、「『笑顔 輝け 大中』のもと、心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、思いやりのあるたくましい生徒を育成する」ことを、教育目標に挙げている。今年度も社会福祉実践校として、社会福祉に関する理解と関心を高め、「共に生きる」姿勢を育てることを目指し、各学年・生徒会を中心に活動を進めた。

- 一宮聾学校や本校特別支援学級との交流活動を通して、心のふれあいと相互理解の推進を深める。
- 福祉実践教室を通して、障害のある人の日常生活について正しい認識を深め、共にたくましく生きようとする気持ちの高揚を図る。
- 福祉体験やボランティア体験活動を通して、思いやりの心と助け合う態度の育成を図る。

## 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

## (1) 本校特別支援学級の生徒との交流

本校特別支援学級の生徒が交流学級の中に入り、宿泊活動、体育祭、合唱祭などに参加した。お互いに声を掛け合い、心のふれあいを深めていくことができた。

## (2) 福祉実践教室・福祉体験活動・ボランティア活動

コロナ感染症対策の中、縮小されながらも、障害福祉サービス事業所で事業所が行っている活動の体験や、高齢者福祉施設で利用者の方とのふれあうことができた。

## (3) 募金活動

校内での募金活動は、生徒会役員の生徒を中心に、コロナ感染に気をつけて募金活動を行った。街頭募金活動では、生徒会役員だけでなく希望者を募集することで、これまで以上に体験の幅を広げることができた。



一宮聾学校交流会



福祉体験活動



赤い羽根街頭募金

## 3. 福祉教育の成果と今後の課題

生徒会や各学年・学級の活動の中で、多くの生徒が積極的に福祉活動に参加した。福祉活動を通して、生きた心の教育ができた。また、交流活動を通して、思いやりの心や共生への意識の高揚が見られるようになった。さらに、福祉活動を行っていく中で、生徒が自分自身を見つめるよい機会にもなった。

今後も、中学校3年間でより多くの生徒が福祉の体験活動ができるようにしていきたい。また、地域の方とのふれあいを大切にして、地域に広がる活動を展開していきたい。そして、コロナ禍でも、ボランティアの体験活動へ安心して参加できるように対策を考え、生徒の参加を一層増やしていく努力をしていきたい。

## 令和3年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立今伊勢中学校	学校No.	60
-------	------------	-------	----

## 1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大を予防するため、清掃ボランティアや挨拶ボランティア、学外の団体と協同しての活動を例年通り行うことが難しい状況だった。その中でも「豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成」を教育目標に、生徒会活動やボランティア活動を通して、礼節や思いやりの心を育て、人権意識の高揚を図るとともに、いじめや不登校生徒を作らない学校を目指し、実践に取り組んだ。

## 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

## (1) 清掃・挨拶ボランティア

生徒会を中心に、有志の生徒が日替わりで清掃活動や、挨拶運動を行った。参加した生徒を中心に、清掃や挨拶を積極的に行う雰囲気を作ることができた。

## (2) 人権集会

人権週間に合わせて、生徒会が企画をして人権集会を行い、人権やいじめについての考えを深めた。その後、道徳の時間や学級での話し合いをもとに、「いじめ追放宣言書」を作成した。いじめを許さない学級を目指し、生徒一人ひとりがいじめをなくすために必要なことを考えることができた。

〈いじめ追放宣言書作成の様子〉 12月8日(水)



## いじめ追放宣言書

私たちは、いじめを許しません。

- ・だから、自分の言葉や行動に責任を持ちます。
- ・だから、一日一回以上「ありがとう」を言います。
- ・だから、発表や発言後にあたたかい拍手を送ります。
- ・だから、人の発言を尊重します。
- ・だから、人の失敗を責めず、カバーします。

## (3) 青少年等ボランティア福祉体験学習

福祉問題の学習や理解を深めるため、有志の生徒がボランティア研修と社会福祉施設でのボランティアを体験した。活動を通して、社会福祉への関心や社会参加への意欲を高めることができた。

## 3. 福祉教育の成果と今後の課題

昨年度から、他者とかかわる行事や活動が制限されており、生徒の意識も自分とその周囲にとどまっている。しかし、生徒会を中心としたボランティア活動では、第1回よりも第2回のほうが参加人数が増加しており、機会があれば積極的に活動を行う生徒が多いことも事実である。来年度は、新型コロナウイルス感染症に対する予防を徹底して、「誰かのために働きたい」という生徒の思いを生かせるよう、地域の行事にボランティアとして参加できるような機会を、地域づくり協議会と連携して増やすとともに、学内でのボランティア活動も活発に行っていきたい。また、生徒会活動の人権学習や、ボランティアで高めた意欲を日々の活動に生かせるようにしていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。